

# 高齢者を対象にしたネットスーパーを含む買い物動向調査

○岩上雄飛 (Yuto Iwakami)、園尾恭弘 (Yasuhiro Sonoo)、中村広幸(Hiroyuki Nakamura)

Keywords : 情報デザイン、ネットスーパー、スマートフォン、通信販売

## 1 目的

本研究の目的は、高齢者を対象にした調査を通し、現在高齢者がどのような買い物をしているのか、通信販売・ネットスーパーにどのような課題点を感じているのかを明らかにすることである。また、10年前に行われた類似の調査[1]と比較し、インターネット、スマートフォンの普及による影響でどう変化しているかを見る。

## 2 方法

調査の方法は、ポスティングによるアンケート調査を利用した。調査の対象地域は、2020年度の国勢調査、2023年1月1日時点の住民基本台帳を元にした、高齢化率、高齢者施設の有無、高齢世帯の数をもとに地域の選別を行った。地域の決定にあたっては、10年前の調査[1]の地域、生鮮食品を購入できる店舗との距離などを比較し、芝浦工業大学のある埼玉県さいたま市見沼区の大字深作と、東大宮三丁目に決定した。

調査の対象は、高齢化率、近くのスーパーの位置、大学キャンパスからの距離、高齢者施設の有無などから調査地域を選定し、選定した地域に在住する家庭内で買い物を主に担当している60歳以上に限定した。

調査の実施方法は、調査票は両面のA3用紙に印刷し、角2の封筒に入れ配布を行った。この調査票には、買い物動向に関する質問、通信販売の利用に関する質問、ネットスーパーの利用に関する質問、年齢やインターネットの利用頻度などの回答者の属性に関する質問、の4つのパートに分けて構成した。

調査票の回収方法は、同封した長3の封筒に入れて返送する方法、依頼票に記載したQRコードからGoogle Formsで回答する方法の2パターンを用意した。

## 3 結果

本調査は、2023年9月6日から2023年9月10日の間に配布、回答期限を9月25日までとし2023年9月28日時点で、郵送で256件、オンラインで40件の回答を得られている。

本調査で得られたデータは現在集計中であり、学会では結果の概要を報告する。

### 【主要参考文献】

[1] 鈴木あやか. 「買い物難民」解消のためのショッピングサイトの検討. 芝浦工業大学卒業研究論文. 2012